

<第三種郵便物認可可>

保守新時代

自民党50年

第一部 再興への出発

3

◆3%の移動で

民主党は二百三十議席に大躍進、自民党は百九十四議席と惨敗、公明党の三十一議席と合わせても民主党に及ばない。

東海大教授で日本政治総合研究所会長の白鳥令がはじき出した次期衆院選シミュレーションの「予測B」。自民党の野党転落という衝撃的な結果だ。

シミュレーションは昭和六十一年から平成十五年までの衆院選計六回の得票をもとに、「回帰分析」という統計学的手法を用いて議席を判定した。「予測B」は自民党に投票すると試算された有権者のうち、3%が民主党に投票するという「逆風」の想定だ。年間問題などの影響で自

民党が民主党を下回った昨年の参院選は「6%程度の逆風」という分析で、「その半分」でも自民党は大惨敗を喫する計算だ。白鳥は「自民、民主の二大政党時代の今、わずか3

北で、自民党は青森、福島両県を除いて壊滅的となる。「風」による票の流れを加味せず算出した「予測A」も自民、民主両党の議席は現在より拮抗するが、これらは公明党の選挙協力が続くのが前提。協力がなくなればシミュレーション以上の議席減も想定される。

人の主婦がこう訴えると、約五百人の女性支持者で埋まった会場から同調の拍手がわき起こり、その後も批判が相次いだ。前代未聞の展開に県連幹事長の北林康司は「この場から消えてな

五議席を独占していた王国・秋田。しかし、昨年の参院選、一昨年の衆院選で自民候補の落選が続き、知事選では非自民の寺田典城に二連敗した。今年四月の知事選は候補者擁立のメドさえ立たない。

政治家と役所、業界団体の「政治家」が結びついた権力構造を基盤に自民党は勢力を保ってきたが、最大

松本はA4判一枚のリポートを手渡した。そこには奇をてらうのではなく、毎朝、毎晩の駅頭演説やチラシの投げ込みなどが列挙されていた。ポイントには「有権者の動向をしっかりと分析して地道に運動を続けること」だ。松本は政務官の職務をこなしながら、午前三時に起きてホームページを書きながら駅頭に立つ毎日

地方で凋落野党転落も

の票移動で大きな変動が起きる。民主党は都市部だけでなく、自民党の基盤の農村部でも勢力を拡大しており、近い将来、政権交代の可能性は十分ある」と語る。

◆崩壊の現場は

「予測B」を地方別にみると、国政、地方選挙とも民主党が勢力を伸ばす東

の中でも、秋田県はとくに厳しい戦いが予想される。現場は深刻だ。「自民党への支持をお願

■次期衆院選のシミュレーション

	前回	予測A	予測B
自民	237	230	194
民主	177	193	230
公明	34	33	31
社民	6	10	9
共産	9	9	10
保守新	4	—	—
諸・無	13	5	6
合計	480	480	480

(注) 前回は平成15年衆院選の獲得議席。予測Aは基本的な場合、Bは自民党に逆風の場合

「ちょっと来てくれないか」 昨年十二月十日、首相側近で国対委員長の中川秀直は神奈川1区選出の総務省政務官、松本純を都内の個人事務所呼び出した。

政策研究大学院大教授(政治学)の飯尾潤は「自民党が選挙で力を取り戻すには、時流に流されるのではなく、議員が国民の目線で小まめに日常活動すること、保守の党として骨太な理念、政策を示すことに尽きる。しかし、一度は十年ぐらひ野党を経験して反省し、出直した方がいいのかもしれない」と語る。(文中敬称略)